第３回継続講座２を８月１９日(土)　１３：３０～１５：３０に開催しました。

会　場　愛知文教大学　２０１教室

テーマ　オリジナル鳥獣戯画に挑戦・絵具遊びから造形活動

講　師　学び合う学び研究所事務長　永井　勝彦 先生

今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、アートのすばらしさです。 永井先生ありがとうございました。だれもまねのできない永井先生だけのすてきな授業でこころも身体もアートの力で free になり、flat を感じ、flow をたのしみました。 参加された学生の皆さんも身体もこころもやわらかく、師の存在は大きいと思いました。学生の皆さんのやさしい表現や自分からは生まれてこないような豊かな想像力を感じました。 木村先生が紙を縦に使ってアートを表現したのを価値づけし、スローペタゴジーで参加者の表現を引き出す永井先生のデザインや身体技法からもたくさん学びました。 自分の作品にも裏彩色をしてみたいと思います。これからもいっぱい学ばせてください。ありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、一つの色で出せる色がたくさんあること。です。 一つの色から水だけで濃淡が出せたり、筆の太さをかえたり、スポイドなど他のものでつけても面白い絵が描けることを学びました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、子供が用いる想像力や好奇心を授業に取り入れ、鳥獣戯画以外の作品を利用していく作画活動は難しすぎず、小学生等の教育にも適しているのかと感じた。歴史的な教材に対してもこうした簡略化された活動が、今後様々な教材を使用していくための私たちのための教材になったと感じました。 学びというものは座学がほとんどで、実践というのは５教科以外の実技教科にあたる教育であると考える。その中で、今回図工の授業としても利用できる鳥獣戯画を実際に描いて、体験型で学ぶことができた。大人のわたしたちでも楽しんで実行でき、自身の造像力を身につける時間にできたと感じる。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、絵画の鑑賞です。 絵画の鑑賞という面での学習ができたが、その他に、筆使い等の技法、話の展開を作成する創造性等の学習があった。 　現代では、創造的な学習がほとんどを占めるようになった。小学校の図工の授業の中で、クロッキーが扱われなくなり絵画の技法を学習することが少なくなった。今回、鳥獣戯画の絵を模写では、筆使いにより、模写された図が原本と異なるという体験があった。筆の勢いにより、全く印象の異なる絵となる。 　また、筆使いの大切さを理解することにより、鳥獣戯画に描かれた作品のすばらしさを感じることができた。鳥獣戯画の作者は、カエルやウサギの筋肉のつき方を深く研究していたことがわかった。深い研究から、相撲をととったり、笑い転げたりする生き物を、生き生きと描くことができたのである。ただ、絵を見て鑑賞するだけではない、その絵の良さを、模写をするという作業を通して理解できる。 　そして、最終的には模写した絵を組み合わせて作品作りを行った。好きな生き物を、ラン

ダムに数枚模写していたので、いざ物語を作るとなると困った。しかし、組み合わせていくうちに、話の展開を思いつくことができ、ストーリーを作る楽しさを味わうことができた。模写という、どちらかというと職人芸的な学習であるが、そこから、創造性を育てることができたのは、驚いた。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、自ら墨画体験をすることで、その技法を学ばせる子どもの立場と取り組みの意識、指導者側の教材研究の視点などを学び得ることができた。ことです。 「オマージュ」が基本になっていた今日の講座だったので、墨画技法の拙さをカバーしてくれる安心感と完成させたい作画への自由な想像力が大きくなっていった時間になりました。企画と準備へのご苦労と永井先生のご指導に感謝します。